

英語以外の外国語を学んだ生徒たちの声  
—神奈川県立藤沢総合高等学校における、生徒インタビューの内容—  
The voices of students  
who learned foreign languages other than English:  
Results of the interviews of the students of Fujisawa Sogoh High School

潮田 央 USHIODA Hisashi<sup>1</sup>  
佐々木 亮太 SASAKI Ryota<sup>1</sup>

**要旨**

本稿は藤沢総合高校における、英語以外の外国語(中国語、スペイン語)を履修した生徒たち6名のインタビュー内容をまとめたものである。本校は総合学科の県立高校で、選択科目の一つとして外国語科目を設定している。生徒には外国語を学ぶことについて4つの観点から質問をした。生徒たちの感想から、生徒たちは学習を楽しむだけでなく、複数言語を学ぶことで他の言語を学ぶことについて考えたり、外国語学習の異文化理解としての面について考えたりしていることがわかった。

**キーワード:**

複言語教育、生徒インタビュー、高校教育における外国語学習

**Abstract**

Fujisawa Sogoh High School is a prefectural comprehensive school. The school adopted the second foreign language classes as one of elective subjects. This report discusses the results of the interviews conducted with six students at Fujisawa Sogoh High School. The students learned foreign languages other than English, such as Chinese and Spanish. We interviewed the students from four different viewpoints. We found that not only the students enjoyed learning the languages but also thought how to learn other languages and cross-cultural skills from those languages as part of plurilingual learning.

**Keywords:**

plurilingual education, learner interviews, learning foreign languages in high

---

<sup>1</sup> 所属: 神奈川県立藤沢総合高等学校 Kanagawa Prefectural Fujisawa Sogoh High School

## school

### 1. 藤沢総合高等学校の概要

藤沢総合高校は、神奈川県立の高等学校で藤沢市北部に位置する。県の中央部に位置しており、交通の便が良いため、県の広範囲より生徒が入学している。単位制総合学科であり、2、3年次では100を超える選択講座があるほか、半期ごとに単位を認定するセメスター制である。生徒は全体の時間割を元に、自分の進路を考えたいうえで時間割を作成する。そのため、大学(短期大学)、専門学校、就職等、多様な進路希望を持った生徒が入学する。

英語以外の外国語の履修については、コース制や必履修科目として英語以外の外国語科目を設置しているのではなく、2年次以降に履修できる選択講座の一つとして設置している。1年次生の時間割は芸術科目を除き、ほとんどが必履修科目である。2年次以降ではじめて、他の選択講座と同じく、英語以外の外国語を学ぶ機会ができる。中国語は「中国語入門」「中国語発展」、スペイン語は「スペイン語入門」「スペイン語発展」である。「発展」は、原則として「入門」を履修後に選択する科目である。いずれも半期セメスターで、2単位の授業である。すなわち、半年間に、週4時間ずつ授業を受ける。2023年度からは韓国語の「ハングル入門」、「ハングル発展」がここに加わる予定である。

本校の授業は、1時間当たり55分(今年度については感染症対策として50分)で2・3年次の共修の授業で、一クラスあたりの人数は26人までとし、ティーム・ティーチング(TT)としてネイティブスピーカーが入ることもある。

本校では、複数の言語を学ぶことを推奨し、中国語とスペイン語の両方を学んでみることを生徒に勧めている。さらには、スペイン語・中国語の授業においては、学習の取り組みを共通化させているところがある。共通する点は三つある。

一点目は単元の設定である。初習の外国語ということもあり、達成目標が近い。中国語やスペイン語を使用する人が身近にいる可能性のある地域なので、挨拶等日常で必要な会話をできるようにしたり、勉強した語学を用いて、簡単な自己紹介をできたりすることを目的としている。そのため、上位校の入学試験で面接がある生徒は、日本語、英語、中国語、スペイン語を使って、簡単な自己紹介をすることがある。言語の違いはあるものの内容が似た単元を設定している場合もある。例えば、中国語では「有名人を紹介しよう」という単元があり、スペイン語では「人物やキャラクターを紹介しよう」という単元である。

二点目は、ふりかえりなどの評価の方法である。特に、「主体的に学ぼうとする態度」については、パフォーマンス課題の総体としての評価だけではなく、ふりかえりを生徒に書かせ、その記述内容を評価している。

三点目は使用する ICT である。神奈川県教育委員会では 2019 年より高等学校で用いる ICT ツールとして GoogleClassroom を採用している。そのため、生徒は一人ひとりアカウントを持っている。GoogleClassroom によって課題を配信し、動画で提出させている。また、Google Forms でふりかえりを書かせ、授業アンケートをすることもあ。他にも、自動翻訳アプリ VoiceTra を使用し、翻訳機能のみならず、発音の練習や矯正、内容の予習にも用いている。

## 2. 英語以外の外国語を履修している生徒たち

### 2.1 履修状況

本校の履修状況を、下記の二つの表で見たい。

表 1 2021 年度の講座の展開数と選択者の受入可能人数

開講期	講座名	講座の展開数	受入可能人数
前期	中国語入門	3	78 人
前期	スペイン語入門	2	52 人
後期	中国語入門	1	26 人
後期	スペイン語入門	1	26 人
後期	中国語発展	1	26 人
後期	スペイン語発展	2	52 人

※展開数というのは 1 週に別時間割で同講座が開講されている数のことである。

表 2 2021 年度卒業生 266 人における 2、3 年次に英語以外の外国語を履修した人数

履修した言語	人数	総人数における割合
スペイン語のみ	36 人	14%
中国語のみ	50 人	19%
スペイン語と中国語の両方	60 人	23%
英語以外の外国語	146 人	55%

表 1 は展開数である。表 2 は履修人数で、英語以外の一つの言語のみを履修した生徒よりも、両方を履修した生徒数の方が多いということがわかる。特定の言語に

のみ興味がある生徒だけではなく、言語の学習そのものにも興味がある生徒が少なくなることがわかった。

## 2.2 生徒の声

当該授業を受けている生徒たちが、授業を受けてどのように感じているか、履修者にインタビューを行った。本校では、授業改善の一環として、研究授業を行う際には、研究授業を受けた生徒を研究協議の場に招き、生徒に質問をしている。例えば、「今日の授業を通じてできるようになったことは何ですか」や「今後、授業以外の場面でも使えそうなことはどんなことですか」等の内容である。教員による研究協議の前に、まずは生徒の反応を見て、彼らの様子から気付きを得るという活動である。本校ではこれを「生徒インタビュー」と称している。研究授業が多い時期には、連日行われることもある。今回はこの生徒インタビューの手法によって、インタビューを6名に実施した。

- A 高校3年生女子、中国語、スペイン語、英語を履修 短期大学に進学
- B 高校3年生男子、中国語、スペイン語、英語を履修 専門学校に進学
- C 高校3年生女子、中国語、英語を履修 大学に進学
- D 高校3年生女子、スペイン語、英語を履修 大学に進学
- E 高校3年生女子、スペイン語、英語を履修 専門学校に進学
- F 高校3年生女子、中国語、スペイン語、英語を履修 大学に進学

いずれも、2019年に入学し、インタビュー時の2022年3月に卒業した生徒である。卒業後に近い2月にインタビューを実施した。質問は次の通りである。

- (1) なぜその言語を学んだのか？
- (2) いろいろな言語を学んでよかったと思うことは何か？
- (3) いろいろな言語を学んで英語の勉強に役立ったことはあるか？
- (4) その言語を学んでいるときに楽しかったことはどんなことか？

(1)は学習の動機である。(2)は各言語の学習を通して、生徒がどのような達成感を感じているかを聞いた。(3)は、生徒たちは共通して英語を学習している、英語の学習を通して他の言語の学習に役立つことがあったり、逆に他の言語の学習を通して、英語の学習に役立つことがあったりするかを問うた。中国語、スペイン語の単元でも共通することがあったように、生徒の学習や意識の中にも、複数言語を学んで共通する学習法があったり、複数学習したからこそ感じられることがあったりするのではないかと考えたためである。(4)は外国語の学習自体の楽しみを聞くとともに、授業内の活動

で楽しかったものについて聞いた。

**(1) なぜその言語を学んだのか？**

- A: 中国語は世界で一番使われている言語と言われている。中国語を使えるようになれば、中国人や中国語を利用している人に会ったときに使えると思って学んだ。また、スペイン語は、(文法構造が)英語と似ていて学びやすいと思って選択した。英語は、もともと勉強していて一番興味があった、もっと力を伸ばしたいと思って勉強した。
- B: 高 1 でアルバイトをしていた時に、中国語を話すお客さんが来て対応に困った際にこれで中国語が話せたらとても便利だと思って履修した。自分が通う藤沢総合高校では他の学校にない科目が学べる。せっかくならと思ってスペイン語を履修した。自分は将来航空整備士になろうと思っていて、航空会社では、英語が必須といわれているので英語を履修しようと思った。
- C: 私には中国人の友達がいてその子との仲をもっと深めるために、その子の国のことばをもっと理解することが大事だと思ったため学んだ。英語は苦手だが、今後使う機会ももっと多いと思ったので、理解を深めたいと思い学んだ。
- D: 言語を学ぶことが好きなので、選択科目があることを知り、積極的にとった。
- E: この学校に入る理由として、最初は英語だけ履修しようと思っていた。もともとポルトガル語が話せるので、スペイン語科目があると知って、関連しているスペイン語も学んでみたいなと思って選択した。
- F: 興味本位でスペイン語を選択したが、将来海外旅行に行きたいので、その時に役立つかなと思って履修した。

**(2) いろいろな言語を学んでよかったと思うことは何か？**

- A: (中国語を勉強する) 以前だったら、看板などを見ても、自分は理解しようとせずに、ただ眺めているだけだったが、例えば、AZUR(スペイン語で青という意味)というお店の看板を見ると、今ではその意味がわかるようになった。言語を学ぶことによって、その国の文化にも興味を持ったので、その国についても調べて、本校の課題研究発表会では、言語の違う国の人だからこそ悩むことについて理解したり調べたことを発表したりした。
- B: 中国語については、中国人の方は自分のいる町にも結構いて、(勉強する前は)ずっと怒っているみたいに話していると思ったから、この人はいったい何を思って

いるのだろうと思っていた。しかし、実際に中国語を学んでみると、現地の方は話すのがとても速くて、これは怒ってないけど、話し声が速いせいで怒っているように聞こえているんだと思うようになった。スペイン語については、スペインにも行ったことがなくて、あんまり知らない国だったが、授業で観光地などを調べていくうちに、サグラダファミリアをはじめ、いろんな建物がきれいな土地だということがわかった。英語は、中学校より高度な勉強をすることができたので、その内容はこの先にも生かせると思った。

C: 私は小さい時に中国に家族で旅行に行ったことがあったが、その時はまだ中国語がまったく理解できてなくて、中国語を見ても全然読めなかった。高校で中国語を学んだあと、町で中国語の看板を目にしても何となく理解できるようになっていた。中国語では、日本語と同じ漢字を使うこともあり、見たことない単語でもわかる漢字があり、読めることもあったのがとてもうれしかった。

D: 自分は、英語を学ぶのは好きだけど、苦手だった。スペイン語を履修して、スペイン語を学ぶときに、英語ではこうだと考えることが多くて、両方同時に上達できたのでよかった。

E: 私はポルトガル語も話せるけど、それとあわせてスペイン語を学ぶことができて、ポルトガル語とスペイン語でこんがらがることもあったが、二つの言語の違いもつながりも知ることができたという面ではすごく楽しかった。

F: 日常の中で、駅とかにはいろんな言語が書いてあることが多く、これまで英語しか読めなかったけど、スペイン語も読めるようになって嬉しかった。

### (3) いろいろな言語を学んで英語の勉強に役立ったことはあるか？

A: 逆に、英語が他の言語に役立った。スペイン語を学んでいるときは、単語が似ているので関連して思い出すことができた。英語を学んでも、スペルとか L と R の発音の違いを理解していたので、中国語のピンインでの発音もすごく理解しやすかった。

B: 中国語とスペイン語どちらも、すごく発音に気を遣う言語で、発音がちょっとでも違うと別の意味に聞こえてしまったり、(こちらが)言っていることがわからなくなってしまうので、ピンインや発音、アクセントをしっかり意識することを心がけていた。それが英語でもしっかり生きるようになっていて、スペイン語、中国語を履修してからは、英語の発音やアクセントに気を遣うようになって、しっかりとした英語を話せるようになったのかなと思っている。

- C: 中国語は初めて習う言語だったので、先生が文法の細かいところから教えてくださった。中国語と英語は主語から始まるなど、文法で似ているところが多く、中国語を学んだあとに英語を学ぶと、もう 1 回文法をしっかりと見直すことができ、勉強がはかどった。英語ではカタカナ読みになってしまうことが多かったが、中国語で発音をしっかりと意識するようになってからは、英語でも発音を意識するようになった。
- D: 似たような単語があると、最近知った単語のほうを覚えているため、(最近勉強した) スペイン語でこうだったから、(以前に勉強した) 英語の単語もこうなっていたんだなと感じ、振り返ってみると、後から英語について考えるようになったと思う。
- E: スペイン語を学び始めてから、(授業がなくなったために) 英語と触れ合う機会がなくなってしまったが、逆に英語を知っていたから、スペイン語にも似ている部分があるということがよくわかった。似ていることばがあつて、つながりが見えた。
- F: スペイン語からというより、英語でも似た単語があったから、勉強しているスペイン語の単語でも理解しやすいことがあった。

#### (4) その言語を学んでいるときに楽しかったことはどんなことか？

- A: 中国語では、みんなで誕生日の数字を聞き取って誕生日順に並ぶ活動。実際に勉強したことばを活用し、自分の実力を試せる機会でもあったので、とても楽しいと感じた。スペイン語では、記者に質問されたらというテーマで、実際に質問したり、受け答えしたり、みんなの前で発表する機会があった。レストランでの場面を想定して、セリフを実際にやりとりするなど、実演する授業がとっても楽しかった。
- B: 中国語では、日本でよく見ていたディズニーの映画を、中国語翻訳で見て、もともと覚えていたキャラクターの声と、中国語での発音の声とが、全然違っていたことがすごくおもしろかった。また、中国では、ヒマワリの種を食べる文化があつて、そのことは知っていたけれど、どういうものか食べたことがなかったので、実際に食べてみて、なんかナッツみたいでとてもおいしいと思った。スペイン語では、スペインの文化を全然知らなかったなので、文化の勉強をして、とても面白い国だとわかった。また、有名人について調べて発表する授業では、どうやったらその人を表現ができるかを工夫するのが面白かった。
- C: 中国語では、中国の料理名を中国語で発音してみたり、ディズニーのキャラクターを中国語バージョンで学んだり、(以前から) 知っているものを中国語で知るこ

とができてとても面白かった。中国のお札を実際に初めてみたときに、日本のより小さくて、単位も小さかったのがとてもびっくりした。

D: 私は映画を見るのが好きで、映画を見てスペイン語とかちよっとでも理解できると嬉しかった。

E: 私はスペイン語もラテン系のことばで、ラテン系ならではの楽しそうな雰囲気さがすごく楽しかった。

F: 英語の授業では、グループワークでも(発表や話し合いの時でも)授業が静かなために、恥ずかしさがあったが、スペイン語の授業では、(普通の授業の雰囲気も)わいわいできたのがよかった。

### 3. 生徒たちの感想から見えてくること

生徒インタビューから、次の三点のことがわかった。

一点目は、言語の共通点や相違点について述べる生徒の多さである。文法構造が似ていることを指摘する生徒もいれば、新しく学んだ言語の発音を意識することで、英語の発音に立ち返り、意識が変わることで自分の発音が良くなったと述べる生徒がいる。授業時間数に限りがあるため、文法を中心に、講義によって高度な学習をすることはないが、そうした授業形態であっても、複数言語を学ぶことで、各言語の特質について感じる生徒が増えていることがわかる。

二点目は、文化的な内容について述べる生徒が多いことである。中国語の授業も、スペイン語の授業も、本校では会話の学習が中心であるけれども、文化的な内容を含めた単元を設定している。料理や建物について、その国の有名人について、風俗・習慣に関するもの等である。日常生活で学習した言語に出会うときには、多くの場合、文化的なことを意識する場面である。異文化理解の側面を生徒も感じていたことがわかった。

三点目は、授業内活動について述べていることである。授業内では、単元ごとに多くの授業内活動(アクティビティ、言語活動)を行っている。目標に基づきつつ、多様な活用を行うことが重要であるとわかった。

以上のことをふまえ、今後の展望を述べる。まず、今後も生徒のニーズを踏まえ、複数の言語を学ぶことを一層推奨したいと感じる。2023年度より、中国語、スペイン語に加え、韓国語の講座も加わる。時間割上の制約は多いが、三つの言語を履修できる環境を整備したいと考える。次に、単元における文化的な学習をさらに進めたいと考える。特に、授業内活動と同じように、文化的な項目(例えば、料理や習慣等)



についても、各言語で似た単元を設定することで、履修した生徒がより気付きをえられるような工夫をしたい。最後に、独立した学習者の育成を心掛けたい。高校段階で基礎的な外国語学習を学んだ生徒が、その後に、その外国語を続けて学んだり、他の外国語を学んだりすることは多い。今後も一人で学び続けられるように、勉強の方法や手段を、自分で認識ができるようにふりかえり等を工夫したい。